

拡大教科書とは

【概要】

「拡大教科書」とは、文部科学省の検定を経た教科書の文字や図形等を拡大して複製したもので、視覚障害のある児童及び生徒が使用する教科書です。

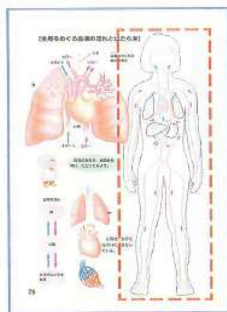
小学校及び中学校で使用する教科書のうちほぼ全点について、教科書発行者から拡大教科書が発行されており、必要な児童及び生徒に対して無償給与されています。

【拡大教科書の主な特徴】

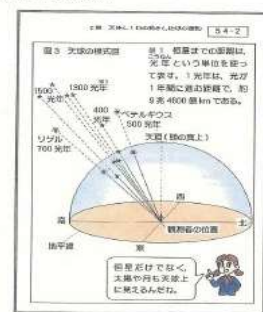
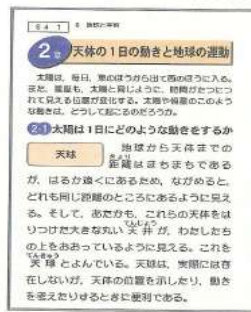
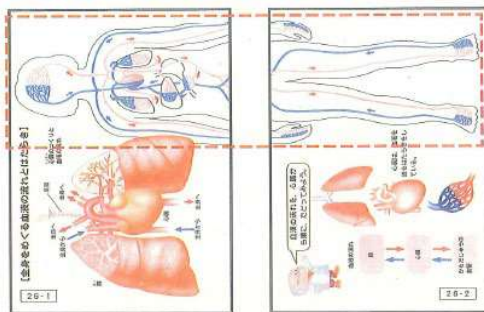
- 原本となる検定教科書 1 ページの本文、解説文、ルビ等の文字要素について、大きさ、字体、字間、行間、図・写真等が拡大されており、概ね 2～3 ページに収まるように配置されています。
- 1冊のページ数が多いため、分冊となっています。
- ページ番号の表記が原本となる検定教科書との対応関係がわかるよう、ページ数にハイフンでつないで、拡大教科書での連番数を追記しています。
(例：原本となる検定教科書の 20 ページ目が拡大教科書で 3 ページにわたる場合は、「20—1」「20—2」「20—3」という番号を付けています。)

(参考) 拡大教科書のイメージ：上が原本となる検定教科書で、下が対応した拡大教科書になります。

検定教科書



拡大教科書



出典『「拡大教科書」作成マニュアル』(平成 17 年 1 月 21 日発行、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所)より一部引用